

## 千葉労働局長による「ベストプラクティス企業」への職場訪問 ～令和4年度は建設業 旭建設株式会社を訪問～

千葉労働局では、毎年、11月の「過重労働解消キャンペーン」の取り組みの一環として、長時間労働の削減に向けて積極的な取り組みを行っている企業（ベストプラクティス企業）を訪問しています。

令和4年度は、「過重労働解消キャンペーン」期間中の11月21日(月)に、旭建設株式会社本社（千葉市中央区川崎町1-39）を千葉労働局長（江原由明）が訪問し、取組の状況などについて高橋昌弘代表取締役社長ほかの方々から説明を受けました。

旭建設株式会社は、昭和14年に創業し、数々の公共施設、インフラ整備にかかる工事、福祉施設、商業施設などを手掛け、千葉市に本社を置く会社（従業員88人（訪問当時））です。

“Changing&Challenging 変革と挑戦 with Team A（旭）”をスローガンに掲げ、働き方改革の重要性をいち早く会社全体で強く意識し、協力会社（約250社）で構成される「旭会」も交えて、平成31年から一丸となって取り組みを進めており、高橋社長は「働き方改革、生産性の向上は、協力会社の皆様の働き方、生産性にも直結する。受注関係も含め、常にコミュニケーションを図っている。」と述べられました。

社内には、独自に作成した多数のポスターが掲げられており、社員の方によると、「上からの押し付けでは改革は進まないとの考えの下、ポスターの撮影、内容、スローガンも毎回社員で考えて作成し、その数はこれまでで30枚を超える。」とのことで、ポスターの写真には、やる気に満ちた表情で現場に立つ社員の姿が数多く見られました。



旭建設株式会社では、事務部門及び現場の双方につき週休2日制を導入することで週40

時間制の達成と時間外労働の削減にもつなげていますが、社員の方から、「建設業界には、お客様が早期竣工を望む産業特性とバブル崩壊後の受注量の変化などから週休 2 日制の導入について、当初は社員からも戸惑いや不安の声も上がった。そんな中、すべての現場を巡回してそれぞれの現場の作業内容を理解し、現場で現物を実際に見ながら、ビジョンに照らし合わせてどうなのかを皆で考え、週休 2 日の実現に近づけていくことができた。」とのご説明を頂きました。

また、工夫を凝らした取組として、部門と所長が率先して現場作業の進行を 1 週間という適度な区切りで捉えた「週間業務工程表」という若手とのコミュニケーションツールを積極的に活用したこと、若手社員の発案からタブレットを活用したビジネスチャットツールにより、その都度現場に赴かなくても伝えたい情報を上司や同僚と共有できるように工夫した事例などについてご紹介頂きました。社員の方からは「ビジネスチャットツールを導入したことで、電話だと時間を選ぶ、言葉だと伝わりにくい内容も、写真や PDF を転送でき、不慣れな建築用語の伝わりにくさも解消されて円滑にコミュニケーションが図れるようになった。」「これら「週間工程表」とビジネスチャットツールは、現場の施工のみならず、竣工後も経験と結びついてその後の技術面、管理面に生かすことができ、現場管理の身近な教科書としても活用できるメリットもある。」等のご意見がありました。

また、年次有給休暇についても、全社で協力して一時的に現場に応援要員を配属することで仕事のクオリティとスピードを落とさない仕組みづくりに成功し、お盆や年末年始の時期に全社員統一した年次有給休暇を一斉付与する方式を取り入れ取得率も向上したとのご説明がありました。

今回の企業訪問では、会社と社員、管理部と現場、ベテラン社員と若手社員がそれぞれに息が合い、目指す方向性が揃った全社一丸となった働き方改革となっている様子を感じ取れる、大変有意義なものとなりました。



親近感と伝わる力の強まりをねらったオリジナル安全ポスターを前に自社の理念と取組について語る高橋社長とその説明を受ける江原千葉労働局長